

部 会 報 告

令和7年度第135回建設施工研修会（映画会）開催報告

広報部会

1. はじめに

建設施工研修会は、協会内の広報部会における事業活動の一環として、昭和55年度以来、各種の工事記録や施工法などの紹介を目的にあらゆる建設会社から記録映像を借用し、『最近の機械施工』と題した「映画会」という位置づけで開催を続けております。

現在は「建設施工研修会」と改名し、上映内容の範囲拡大と共に建設会社以外からも多くの映像をご提供いただき、近年において製作された新工法・新機種などに関する映像は「先端技術、環境、安全・安心に配慮した機械・施工・技術等及び新工法」へと多角的な視点から技術を深掘り紹介し、建設の機械施工の進化を追い続けることで135回目を迎えることになりました。

本年も、各支部の協力を得て全国5会場（東京本部：6/25、東北支部：7/7、四国支部：8月下旬、中部支部：9/25、関西支部：10/15）で順次開催が計画され、多

くの会員様に有意義な情報共有の場を設けることができ、事務局としては大変感謝しております。

東京本部は本年も引き続き通常参加とZoom配信のハイブリッド開催にいたしました。

今回も多くの業種からご提供いただいた動画の一部を、写真—1～4にてご紹介します。

2. 東京会場開催報告

【概 要】

令和7年度 第135回建設施工研修会実績

開 催 日：2025年6月25日（水）

場所・参加方法：機械振興会館 地下3階 研修-1号
会議室（定員60名／120収容部屋）、
Zoom配信（上限500ライセンス可）

時 間：13：10～16：00

プ ロ グ ラ ム：表—1の通り



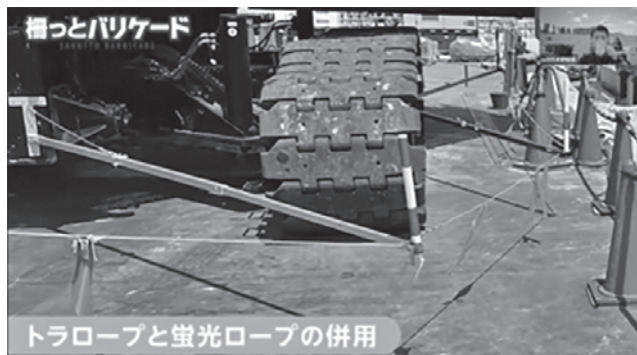
写真—1 建機メーカー提供動画（コベルコ建機株）



写真—3 建設会社提供動画（鉄建建設株）



写真—2 情報機器メーカー提供動画（福井コンピューター株）



写真—4 レンタル会社提供動画（レンタルのニッケン株）

聴講者数：通常聴講 10 名，WEB 聴講 91 ライセンス（1 ライセンス複数聴講人員は不明）

映像は、12 の会員組織（建設機械メーカー 4 社から 9 タイトル，情報機器会社 3 社から 3 タイトル，建設会社 5 社から 11 タイトル，レンタル会社 1 社から 2 タイトル）から，合計 25 タイトルのご提供いただきました。

3. 過去からの傾向

事務局として過去の上映実績を辿った時，2022 年度は建設業に関わるあらゆる業種において「取得データを可視化」する技術開発」が盛んでした。

建設業界の 2024 年問題として一般的にも有名となった「人手不足」という大きな業界課題解決まで 1 年を切った 2023 年度は，「可視化データを異業種のプログラムで活用開始する」ことが主流に。ICT 技術の開発・現場導入・点群データの活用，デジタル化技術の促進という『点』と，一見すると対極的な現場技

表－1 第 135 回建設施工研修会（映画会）プログラム

No.	タ イ ト ル	制作年	上映時間	提供会社
1	K-DIVE [®] ～次の遠隔現場は「林業」～	2025年	5分	コベルコ建機(株)
2	水素燃料電池ショベル 試作機を開発	2024年	2分	コベルコ建機(株)
3	SK160BR-7 Blade Runner [商品紹介]	2024年	2分	コベルコ建機(株)
4	VisionLink [®] Productivity を使った Cat [®] グレード 3D 機能のご紹介	2024年	2分	キャタピラージャパン（同）
5	BIM/CIM 活用：軽量盛土工法でやってみた！	2025年	12分	福井コンピューター(株)
6	小規模工事における ICT 活用 ～小型 ICT バックホウによる作業土工～	2024年	20分	サイテックジャパン(株)
7	TLS Kinematic App ～地上型レーザーの新たな運用手法～	2025年	3分	リーグルジャパン(株)
8	圧入の自動化・遠隔化の取り組み	2025年	3分	(株)技研製作所
9	圧入工法の現在	2025年	6分	(株)技研製作所
10	RED HILL 1967	2024年	3分	(株)技研製作所
11	機械式駐輪場「エコサイクル TM 」 ～地上に文化を，地下に機能を～	2025年	5分	(株)技研製作所
12	災害対策工法「圧入」 ～能登半島地震復旧工事～	2025年	5分	(株)技研製作所
13	地盤改良機遠隔施工技術（仮）	2025年	3分	(株)不動テトラ
14	重機レーザー計測システムと共有データ環境 R-CDE の連携	2025年	4分	(株)フジタ
15	全自動現場巡視ドローンと現場点検アプリの連携	2025年	2分	(株)フジタ
16	鉄道高架橋のプレキャスト化への取り組み（仮称）	2025年	6分	鉄建建設(株)
17	シーコム工法（SeaComb Method） ～I 形鋼材を用いた複合構造橋脚～	2024年	7分	五洋建設(株)
18	『A4CSEL in NARUSE 自動化施工システムによる「現場の工場化」』	2023年	4分	鹿島建設(株)
19	『A4CSEL 造成工事への本格適用を開始』	2024年	4分	鹿島建設(株)
20	『山岳トンネルの自動化施工システム「A4CSEL for Tunnel」が完成！』	2024年	6分	鹿島建設(株)
21	『一車線規制で床版取替が可能な「スマート床版更新（SDR）システム」を開発』	2022年	5分	鹿島建設(株)
22	建築スマート生産現場紹介	2023年	6分	鹿島建設(株)
23	新型マニピュレータ溶接ロボット	2024年	3分	鹿島建設(株)
24	スカイランナー Apollo，スカイテーブル Diana	2024年	7分	レンタルのニッケン(株)
25	柵とバリケード	2024年	6分	レンタルのニッケン(株)

術の「省人技術開発」の『点』の足し算が、機械の自動化・自律化の「模索」を色濃く感じさせられました。

2024年度は「建設機械自体の電動化の進歩」という新たな要素の掛け算により、予てから建設業に携わる人々が最終目標としていた「生産性向上」の具現化を「実感」できるフェーズによりやく「辿りついた」よう見受けられました。

4. 今年度の特徴と今後について

25本の上映動画からは、『真のDX』というゴールテープを切るかの如く、業界が一丸となって駆け抜けている様を彷彿とさせるイメージを受けました。

建設業に関わる全業種が「自動操作・遠隔操作技術の向上」、「通信技術の活用」、「カーボンニュートラルを意識したエネルギー開発・活用」、「AI技術の導入の一般化」が当たり前となったことで、複雑で人と時間を要していた多くの途中段階作業を支援ロボットに任せられる技術開発が活発化し、画期的に「省人化」+「作業の合理化」=「生産性向上」の『ワンセット化』を実現に導けたことが、現場に還元できる技術の提供

に拍車をかける相乗効果を生んだのだらうと強く感じられました。ここ数年、提供本数の少なかった建設会社からの映像が今年は多かったのが、前述の象徴ではないかと捉えられました。

ただ、増え続ける便利で高度な技術の利用によって、全ての建設関係者が同一の費用対効果を楽しむという現実問題を、『発想の転換』で飛びこえる、シンプルながらもあえて「アナログ寄り」で便利な開発を手掛ける技術の紹介動画もあり、「ものづくり」が仕事である会員各社の揺るがない「お客様に寄り添った姿勢」を垣間見れたことは、とても大切・且つ貴重でした。

今後、地球に優しいエネルギー開発が「スタンダード」な時代を迎えた時、開発される商品にも幅が出てくる未来が訪れ、本企画の上映動画も「業界を明るく魅せる」訴求力のあるラインナップが揃うように変化を遂げるのではないかと期待が膨らみます。

【筆者紹介】

松本 寛子（まつもと ひろこ）
（一社）日本建設機械施工協会
業務部

